

こども家庭科学研究費補助金
(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)

分担研究報告書

分担研究課題名

HTLV-1 キャリア妊産褥婦への支援
人工乳への移行支援マニュアル作成

分担研究者

井村真澄	日本赤十字看護大学大学院 特任教授
有森直子	新潟大学医学部保健学科 教授
根路銘安仁	鹿児島大学医学部保健学科 教授
柘植薫	香川大学医学部附属病院がんセンター 臨床心理士

研究協力者

下敷領須美子	前 神戸女子大学看護学部 教授
北村愛	鹿児島中央助産院 院長
谷口光代	宮崎大学医学部看護学科 講師
田村康子	兵庫医科大学看護学部 教授
内田朱音	兵庫医科大学看護学部 助教
笠井靖代	日本赤十字社医療センター 第2産婦人科部長
馬目裕子	日本赤十字社医療センター 副看護部長
重松環奈	日本赤十字社医療センター 外来師長
山森佳奈子	日本赤十字社医療センター 産科棟助産師
稲田千晴	日本赤十字看護大学大学院 講師
納富理絵	秋田大学医学部付属病院 がん・遺伝相談部専門看護師 CNS)
木暮菊江	独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター 副看護師長

研究要旨：「HTLV-1 母子感染予防対策マニュアル（第2版）」（2022）に、キャリア妊産婦による授乳法の選択肢として、完全人工乳に加えて、授乳支援体制が整備されていることを必須条件に短期母乳栄養が追記された。これを受けて短期母乳栄養を選択した母親（母子と家族）に対して、90 日未満の短期母乳栄養から完全人工栄養への十全な移行を支援するための援マニュアル（以下、マニュアル）作成を開始した。

鹿児島県における助産師の継続支援を受けた既存の標準的/特徴的 5 事例分析結果（2023 年度）を踏まえ、2024 年度は妊娠期から産後の母乳による授乳終了時期（母乳乳汁分泌低下時期）/人工乳切り替え時期等の時間的経過を横軸に置いた具体的な支援マニュアル作成の準備を行った。具体的には、マニュアル作成に必要な追加情報の収集、今年度実施された「キャリねっとアンケート調査」（2024）結果の検討と活用、マニュアル作成チーム（鹿児島チーム・東京チーム）の新規結成、マニュアル内容/種類（医療者向け・母親向け）の検討、2025 年度の具体的なマニュアル作成計画を立案した。

A.研究目的

本研究は、HTLV-1 キャリア妊産褥婦・子ども・家族に対する人工乳移行支援マニュアル作成を目的としている。2025 年度のマニュアル完成を目指し、2024 年度はマニュアル作成への準備性を高めることを目的に活動を実施した。

B.研究方法

研究活動期間：2024年4月から2025年3月であった。

各論的研究方法：

1. 追加情報収集の必要性の検討：マニュアル作成にあたり、「短期母乳栄養を選択したHTLV-1陽性妊産婦への支援」に関する令和3年度研究報告書（JSPS16K12186. 下敷領.2021）（以下、報告書）により、詳細データが得られている鹿児島県にお

る助産師の家庭訪問継続支援を受けた短期母乳栄養16事例・長期母乳栄養1事例等のデータで十分か否か（飽和されているか）について、班会議等で検討した。

2. キャリねっとアンケート調査結果の活用：キャリねっと登録者HTLV-1キャリア妊産婦に対する授乳指導ウェブ質問紙実態調査（2024年9月12日～12月1日、内丸薫、渡邊俊樹）実施結果をマニュアル作成に活用した。
3. チーム再編成とマニュアル作成方針：鹿児島における訪問支援事例分析チーム、および、東京における産科施設授乳外来フォロー事例分析チームを新たに結成した。
4. 2024年度後半期および2025年度計画立案：コアメンバー会議の設定とマニュアル作成に向けた具体的計画を立案した。
5. 鹿児島県における訪問事例及び東京における授乳外来事例の再分析：新規に編成された鹿児島チームは既存データの再分析を開始した。東京チームは研究発表を経て、医師および助産師による支援に関する補足データ収集と整理を実施した。

（倫理面への配慮）

鹿児島県における研究は、神戸女子大学「人間を対象とする研究倫理 委員会」承認（受付番号 2020-29-1）を得て実施した。東京における研究は、日本赤十字社医療センター臨床倫理審査会の承認（承認番号 1596）を得て実施した。追加情報収集については、協力への自由意志の尊重、匿名性の担保、個人情報保護等について口頭と書面による説明を行いと本人の書面による承諾を得て実施した。

C.研究結果

1. 追加情報収集の必要性の検討：班会議等で検討した結果、既存の鹿児島データは十分（飽和）なデータと認識された。ただし、ほぼ助産師家庭訪問事例データのため、鹿児島以外の産科施設における授乳外来フォロー事例情報を補完する必要性が確認された。東京都にある日本赤十字社医療センターにおける事例を追加した。
2. キャリねっとアンケート調査結果の活用：有効回答71名の分析結果から、短期授乳を選択したキャリアマザーのうち65.7%が支援を受けておらず、そのうち約60%が支援を希望していた。主な支援者は助産師等看護職であったが、多職種による支援が行われていた。また、完全人工栄養を選択した母親において、1～3か月の間では、73名中60名（82.2%）が支援を受けておらず、26.7%の母親はサポートを希望していた。これらの結果に基づき、短期母乳栄養に加えて人工栄養を選択した母親への助産師等による支援もマニュアルに組み込むこととした。
3. チーム再編成とマニュアル作成方針：研究分担者/協力者3名からなるコアメンバーによる組織化と意思決定ルートを整えた。新たに、鹿児島チームには兵庫医科大学看護学部教員を、東京チームには日本赤十字社医療センター・日本赤十字看護大学等から研究協力者を追加したチームを編成した。コアメンバーによるマニュアル作成方針案（支援者向けマニュアル・母親等当事者向けマニュアル、短期母乳栄養からの人工乳移行支援マニュアル・完全人工栄養選択者支援等のマニュアル等）は各チームメンバーと双方向的に情報共有し、効果的・効率的にマニュアル作成を行うことができるよう組織化した。
4. 2024年度後半期および2025年度計画立案：コアメンバー会議及び各チーム会議を開始した。2025年度前半に両チームで合意したマニュアル原案を作成、後半期に班会議や専門家の意見聴取に基づく修正、パブリックコメント聴取に基づく修正を経て、マニュアルを完成させる計画とした。
5. 鹿児島県における訪問事例及び東京における授乳外来事例の再分析：妊娠期・分娩期・産後入院中・退院後1か月、2か月、3か月（産後89日まで）の育児期間の人工乳移行、90日以降の母乳栄養終了後の乳汁産生抑制期間別に、乳房や母子（家族）の特徴的状況と支援について分析を開始し、時期別一覧表を作成した。短期母乳栄養の複数バリエーション（例：初乳のみ、産後しばらくは母乳のみ、産後から混合栄養等）ごとの状況と支援ポイント一覧表を作成した。さらに、産科施設内における

妊娠期、産後入院中の医師と助産師の具体的かわりや、産後の授乳外来フォローに関する補足データを収集と整理を実施した。

D. 考察

2024 年度実施したキャリねっとアンケートウェブ調査結果分析結果から、短期母乳を選択した母親への授乳支援体制整備の一環として、助産師・看護師による移行支援マニュアルが必要であることが明らかになった。また、完全人工乳を選択した母親に対する支援の必要性も示唆された。これらの知見は、マニュアル内容を考案するうえでの一助となった。また、専門性の高い新規メンバーを加えたチームを再編成し、助産師訪問支援および産科施設授乳外来支援に関する補足情報を収集や既存データの再分析を実施し、現場適用性の高いマニュアル作成が可能になると推察された。今年度作成した具体的マニュアル作成計画に沿って、次年度確実にマニュアルを完成させることが重要である。

E. 結論

「HTLV-1 母子感染予防対策マニュアル（第 2 版）」（2022）に、キャリア妊産婦による授乳法の選択肢として、完全人工乳に加えて、授乳支援体制が整備されていることを必須条件に短期授乳が追記されたことを受けて、特に短期授乳を選択したキャリアマザーに対する完全人工乳移行マニュアルの作成にむけ、チームを組織化して既存データの再分析、補足データ収集・整理を実施し、マニュアル作成に向けて計画的な取り組みを実施した。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 田村康子、岡本恵、谷口光代、下敷領須美. HTLV-1 陽性妊産婦の看護に関する研究の文献検討. 兵庫医科大学紀要. Vol. 3, No. 1, pp. 27-38, 2024.
- 2) 井村真澄. 写真で早わかり&すぐ実践！乳腺炎・授乳トラブル解決ガイド. プランナー. ペリネイタルケア 2025. 44(1). 9.
- 3) 井村真澄. 乳腺炎・膿瘍切開術のケアが診療報酬に収載. ペリネイタルケア. 2025. 44. (1). 10-12.
- 4) 井村真澄. 乳房緊満による授乳困難への対処と支援. ペリネイタルケア. 2025. 44. (1). 43-50.
- 5) 井村真澄. HTLV-1 キャリアの母親への授乳意思決定支援とケア. ペリネイタルケア. 2024. 43. (4). 106-112.

2. 学会発表

- 1) 山森佳奈子他. 短期母乳栄養を選択した HTLV-1 キャリアである母親の体験. 日本母乳哺育学会雑誌 18 (suppl) 92-92, 2024.

3. 講演会・シンポジウム

- 1) 井村真澄. HTLV-1 キャリアの母親（母子と家族）への助産師による意思決定・授乳支援. HTLV-1 母子感染予防に関する全国研修会. 2025.3.8. 子ども家庭科学研究事業・次世代育成基盤研究事業：HTLV-1 キャリア妊産婦の支援体制構築に関する研究. 東京. TKB 品川カンファレンスセンター.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし